

金子敬二先生 略歴



<学歴>

昭和47年 4月

順天堂大学 体育学部 体育学科入学

昭和51年 3月

順天堂大学 体育学部 体育学科卒業 [体育学士]

昭和51年 3月

体育学士 (順天堂大学 体第1667号)

昭和51年 3月

教員免許「中学校教諭一級普通免許 (保健体育)」

昭50中一普 第364号

昭和51年 3月

教員免許「高等学校教諭二級普通免許 (保健体育)」

昭50高二普 第355号

昭和51年 4月

順天堂大学大学院 体育学研究科 保健・体育学
専攻 修士課程入学

昭和53年 3月

順天堂大学大学院 体育学研究科 保健・体育学専攻 修士課程修了 [体育学修士]「走り
高跳びにおける踏み切り過程のキネシオロジー的研究」

昭和53年 3月

体育学修士 (順天堂大学 修第58号)

昭和53年 3月

教員免許「高等学校教諭一級普通免許 (保健体育)」 昭52高一普 第82号

<職歴>

昭和53年 4月 順天堂大学 体育学部 研究生 (昭和53年5月まで)

昭和53年 6月 財団法人 日本体育協会 スポーツ科学研究所 (現:公益財団法人日本ス
ポーツ協会スポーツ科学研究室) 研究員 (平成4年3月まで)

平成 3年12月 「大学設置・学校法人審議会 教員組織審査」 明星大学情報学部・日
本文化学部一般教育 (保健体育) 専任講師の判定を受ける (平成3年12
月) 科目名:「体育実技」、「保健体育講義」

平成 4年 4月 明星大学 一般教育 保健体育 専任講師 (平成9年3月まで)

平成 4年 4月 相模女子大学 非常勤講師 (平成9年3月まで)

平成 9年 4月 中央大学 文学部 非常勤講師 (平成30年3月まで)

平成 9年 4月 明星大学 一般教育 保健体育 助教授 (平成17年3月まで)

平成11年 4月 医療法人 社団多摩リハビリテーション学院 非常勤講師 (平成12年9月
まで)

平成15年 4月 埼玉大学 教育学部 非常勤講師 (平成17年3月まで)
 平成17年 4月 明星大学 一般教育 保健体育 教授 (平成22年3月まで)
 平成22年 4月 明星大学 教育学部 教育学科 教授 (現在に至る)
 担当科目
 [全学共通教育科目] 体育スポーツ科学実践Aバドミントン、体育スポーツ科学実践Bスキー・スノーボード、健康・スポーツ科学論
 [教育学部科目] 体育実技A、教育学基礎演習1・2、スポーツトレーニング論、体育、教職体育実技6(陸上競技)、バイオメカニクス、バイオメカニクス演習、教育実践ゼミ1・2・3、卒業研究

<学会及び社会における活動等>

現在所属している学会

日本バイオメカニクス学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本体力医学会、日本武道学会、日本スポーツパフォーマンス学会

昭和51年 4月 日本バイオメカニクス学会(国内学会) 会員(現在に至る)
 昭和51年 4月 日本体育・スポーツ・健康学会(国内学会) 会員(現在に至る)
 昭和53年 6月 日本体力医学会(国内学会) 会員(現在に至る)
 平成 4年 4月 個人研究 陸上競技及び水泳競技における不正出発発見装置の開発(研究分担者)(平成13年3月まで)
 平成 9年 5月 埼玉県スポーツプログラマー養成講習会(文部省認定「社会体育指導者の知識・技能審査認定事業」) 講師(平成16年7月まで)
 平成11年 4月 日本武道学会(国内学会) 会員(現在に至る)
 平成12年 1月 埼玉県スポーツリーダーバンク登録指導者(登録番号11003)(平成18年3月まで)
 平成12年 4月 個人研究 剣道における打撃動作のバイオメカニクスの研究(研究代表者)(現在に至る)
 平成12年11月 (財)日本体育協会公認スポーツプログラマー養成講習会共通科目Ⅱ期集合講習会(文部省認定「社会体育指導者の知識・技能審査認定事業」) 講師(平成16年11月まで)
 平成13年 6月 (財)日本体育協会公認B級スポーツ指導員養成講習会-共通科目-(文科省認定「社会体育指導者の知識・技能審査認定事業」) 講師(平成13年6月まで)
 平成16年 7月 (財)日本体育協会公認B級スポーツ指導員養成講習会-共通科目-(文科省認定「社会体育指導者の知識・技能審査認定事業」) 講師(平成16年7月まで)
 平成22年 4月 個人研究 打撃系格闘競技における打撃動作のバイオメカニクスの研究(研究分担者)(現在に至る)
 平成26年 4月 個人研究 剣道打撃動作時の竹刀慣性モーメントの算出法(研究代表者)(現在に至る)
 平成30年 3月 平成30年度 ジュニア育成地域推進事業「ジュニアスポーツ教室」～陸

上競技から学ぶ走り方～(平成30年3月まで)

令和 4年 4月 日本スポーツパフォーマンス学会(国内学会) 会員(現在に至る)

<賞罰>

令和 5年 3月 日本スポーツパフォーマンス学会 第8回日本スポーツパフォーマンス学会大会 優秀賞(ローイングの力発揮時における身体各部位の制限因子)

<教育研究業績>

[研究分野]

スポーツ科学

[教育方法の実践例]

OHP、パワーポイント、ビデオ教材の活用 平成16年 4月 1日～現在に至る

OHP、ビデオ映像等の教材をパワーポイントを活用した教材に統合

平成20年 4月 1日～現在に至る

[作成した教科書、教材]

OHP教材作成 平成16年 4月 1日～平成16年 4月 8日

ビデオ教材作成 平成16年 4月 1日～平成16年 5月 1日

パワーポイント教材作成 平成20年 4月 1日～平成20年 5月 1日

発育期のこどもの体力の発育・発達に関するパワーポイントを作成

平成21年 8月 4日～平成21年 8月14日

近代オリンピックに関するパワーポイントに教材追加

平成24年 4月 1日～平成24年 4月 2日

体育の目標と子どもの体力の現状

平成25年 8月13日～平成25年 8月20日

身体運動における角運動量保存法則に関するパワーポイントを作成

平成25年10月16日～平成25年10月20日

「スポーツと素質」のパワーポイント教材にデータを追加した

平成27年 3月15日～平成28年 3月15日

ダイエットに関するパワーポイント教材に、ビデオ映像を追加した

平成28年 3月10日～平成28年 3月15日

[実務の経験を有する者についての特記事項]

明星大学一般教育(保健体育)専任教員としての教育実績

平成 4年 4月 1日～平成20年 3月31日

相模女子大学における教育実績

平成 4年 4月 1日～平成 9年 3月31日

中央大学文学部における教育実績

平成 9年 4月 1日～平成30年 3月31日

医療法人社団多摩リハビリテーション学院における教育実績

平成11年 4月 1日～平成12年 9月30日

埼玉大学教育学部における教育実績

平成15年 4月 1日～平成17年 3月31日

明星大学教育学部教育学科専任教員としての教育実績

平成20年 4月 1日～現在に至る

[その他]

明星大学公開講座講師	平成11年 6月～平成11年 6月
明星大学公開講座講師	平成18年11月～平成18年11月
明星大学公開講座講師	平成20年 6月～平成20年 6月
明星大学主催・夏休み小学生体験講座講師	平成20年 8月～平成20年 8月

[資格, 免許]

体育学士(順天堂大学 体第1667号)	昭和51年 3月19日
教員免許「中学校教諭一級普通免許(保健体育)」 昭50中一普 第364号	昭和51年 3月19日
教員免許「高等学校教諭二級普通免許(保健体育)」 昭50高二普 第355号	昭和51年 3月19日
体育学修士(順天堂大学 修第58号)	昭和53年 3月20日
教員免許「高等学校教諭一級普通免許(保健体育)」 昭52高一普 第82号	昭和53年 3月30日

[実務の経験を有する者についての特記事項]

財団法人 日本体育協会スポーツ科学研究所(現:公益財団法人日本スポーツ協会スポーツ科学研究室) 研究員 昭和53年 6月 1日～平成 4年 3月31日

<著書>

1. スポーツバイオメカニクス関係を執筆 共著 昭和59年7月 スポーツなるほど事典—陸上競技—(株東京堂出版)
2. 「慣性負荷と重力負荷」「筋のパワーと力—速度曲線」「パワーの発達」 共著 平成3年5月 健康運動指導者必携キーワード(医道の日本社)
3. 子どもの体育指導のエッセンス 共著 平成30年8月 明星大学出版部

<学術論文>

1. 日本一流競技選手の最大酸素摂取量並びに最大酸素負荷量—第3報— 共著 昭和53年3月 昭和52年度日本体育協会スポーツ科学研究報告(財団法人 日本体育協会)
2. 積算心拍数と運動量の関係について—第2報— 共著 昭和53年3月 昭和52年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁(財団法人 日本体育協会)
3. 運動時における体温の動的様相—第2報・環境温度条件を変化させた場合の動的様相— 共著 昭和53年3月 昭和52年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-5頁(財団法人 日本体育協会)
4. 酸素摂取水準の維持能力に関する研究—第3報— 共著 昭和53年3月 昭和52年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-20頁(財団法人 日本体育協会)

5. M社製パワーアナライザーと従来の慣性負荷法との比較 共著 昭和53年3月 昭和52年度日本体育協会スポーツ科学研究報告(財団法人 日本体育協会)
6. 積算心拍数と運動量の関係について—第3報— 共著 昭和54年3月 昭和53年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-9頁(財団法人 日本体育協会)
7. 脚及び上肢の伸展パワーに関する研究 その1. 脚の伸展パワーに関する研究—膝関節屈曲角度と脚パワーの関係— 共著 昭和54年3月 昭和53年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-7頁(財団法人 日本体育協会)
8. 脚及び上肢の伸展パワーに関する研究 その2. 上肢の伸展パワーに関する研究—肩関節挙上角度と上肢の伸展スピード、力、パワーの関係— 共著 昭和54年3月 昭和53年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 9-19頁(財団法人 日本体育協会)
9. 運動時における体温の動的様相—第3報・被験者の鍛錬度との関係— 共著 昭和54年3月 昭和53年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-11頁(財団法人 日本体育協会)
10. β 遮断剤が運動時の体温に及ぼす影響 共著 昭和56年3月 昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-7頁(財団法人 日本体育協会)
11. わが国における代表的な競技選手についての健康診断、体力測定報告 共著 昭和56年3月 昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-11頁(財団法人 日本体育協会)
12. 東京オリンピック記念体力測定—第4回測定報告— 共著 昭和56年3月 昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-17頁(財団法人 日本体育協会)
13. 心疾患患者、正常人、運動選手の運動に対する交感神経 β -受容体遮断剤の影響 共著 昭和57年3月 昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-10頁(財団法人 日本体育協会)
14. 脚の伸展パワーに関する研究(第2報)—垂直跳における跳躍高と踏切時の力学量の関係について— 共著 昭和57年3月 昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-10頁(財団法人 日本体育協会)
15. 運動時における体温の動的様相—第4報・飲料摂取の影響について— 共著 昭和57年3月 昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁(財団法人 日本体育協会)
16. 高齢ランナーの呼吸循環系機能の特性 共著 昭和57年3月 昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-12頁(財団法人 日本体育協会)
17. 中高年者の運動と骨粗鬆症および変形性変化との関連について(査読付) 共著 昭和58年 体育科学 11, 188-193頁
18. Breath by Breathによる運動開始に伴う呼吸循環系機能の応答に関する研究—第1報— 共著 昭和58年 3月 昭和57年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-16頁(財団法人 日本体育協会)
19. 脚の伸展パワーに関する研究(第3報)—垂直跳における跳躍高と踏切時の力学量の関係について(その2)— 共著 昭和58年3月 昭和57年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁(財団法人 日本体育協会)
20. 運動時における体温の動的様相—第5報・競歩における水分補給について— 共著

- 昭和58年3月 昭和57年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-10頁 (財団法人 日本体育協会)
21. 陸上中・長距離選手の心機能ならびに有酸素的作業能に関する縦断的研究—第1報—
共著 昭和58年3月 昭和57年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-10頁 (財団法人 日本体育協会)
 22. 安静時尿酸排泄物質からみたわが国一流陸上競技選手の特徴—第4回アジア陸上競技大会出場選手における比較— (査読付論文) 共著 昭和58年8月 体力研究 (54), 24-40頁
 23. スポーツ選手のATに関する研究—トレッドミル速度漸増法によるAT、TDMA—
共著 昭和59年3月 昭和58年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁 (財団法人 日本体育協会)
 24. 脚の伸展パワーに関する研究 (第4報)—連続ジャンプの効率について— 共著 昭和59年3月 昭和58年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁 (財団法人 日本体育協会)
 25. 運動時における体温の動的様相—第6報ロサンゼルスオリンピック大会時における環境条件を想定してのマラソン走行中の体温について— 共著 昭和59年3月 昭和58年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-7頁 (財団法人 日本体育協会)
 26. 陸上中・長距離選手の心機能ならびに有酸素的作業能に関する縦断的研究—第2報—
共著 昭和59年3月 昭和58年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁 (財団法人 日本体育協会)
 27. 東京オリンピック記念体力測定—第5回測定報告— 共著 昭和60年3月 昭和59年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-17頁 (財団法人 日本体育協会)
 28. 第23回ロサンゼルス・オリンピック日本代表選手健康診断・体力測定報告 共著 昭和60年3月 昭和59年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-24頁 (財団法人 日本体育協会)
 29. 脚の伸展パワーに関する研究 (第5報)—重量負荷とジャンプの効率の関係について—
共著 昭和60年3月 昭和59年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁 (財団法人 日本体育協会)
 30. 陸上中・長距離選手の心機能ならびに有酸素的作業能に関する縦断的研究—第3報—
共著 昭和60年3月 昭和59年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-7頁 (財団法人 日本体育協会)
 31. スポーツ選手のATに関する研究—第2報中・長距離、マラソン選手のATについて—
共著 昭和61年3月 昭和60年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁 (財団法人 日本体育協会)
 32. 陸上中・長距離選手の心機能ならびに有酸素的作業能に関する縦断的研究—第4報—
共著 昭和61年3月 昭和60年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-15頁 (財団法人 日本体育協会)
 33. スポーツ選手のATに関する研究—第3報第10回アジア大会日本代表選手のATについて—
共著 昭和62年3月 昭和61年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-9頁 (財団法人 日本体育協会)

34. 第10回アジア大会日本代表選手の体力測定報告 共著 昭和62年3月 昭和61年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-23頁 (財団法人 日本体育協会)
35. 競歩のバイオメカニクス的研究 共著 昭和63年3月 昭和62年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁 (財団法人 日本体育協会)
36. 競歩のバイオメカニクス的研究 (第2報) 共著 平成元年3月 平成元年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 1-8頁 (財団法人 日本体育協会)
37. 改良型陸上競技用不正出発発見装置の性能の見当—ユニバーシアード福岡大会における使用結果から— 共著 平成8年 (4), 149頁 (明星大学研究紀要・情報学部)
38. 陸上競技の不正出発を計測する 共著 平成8年 15 (1), 23-27頁 (Japanese Journal of SPORTS SCIENCES)
39. 陸上競技用不正出発発見装置の開発 共著 平成8年 (4), 149頁 (明星大学研究紀要・情報学部)
40. 走幅跳および三段跳における踏切りの目視判定の正確性 共著 平成9年 (5), 51頁 (明星大学研究紀要・情報学部)
41. 走幅跳および三段跳用踏切位置判定装置の開発 共著 平成9年 (5), 57頁 (明星大学研究紀要・情報学部)
42. 陸上競技短距離走種目における不正スタート判定に関する問題点 共著 平成11年 (7), 23-34頁 (明星大学研究紀要・情報学部)
43. 剣道「小手打ち」打撃動作の分析 (筆頭論文) 共著 平成12年3月 (8), 67-76頁 (明星大学研究紀要・情報学部)
44. 剣道の竹刀先端スピードと打撃音の関係 共著 平成12年3月 体育研究 (34), 17-24頁 (中央大学)
45. 打撃スピードの変化に伴う竹刀の動きと打撃音・打撃圧 共著 平成12年3月 明星大学研究紀要人文学部 (36), 19-28頁
46. オートリコール機能を備えた不正スタート発見装置の検証について 共著 平成13年3月 明星大学研究紀要情報学部 (9), 101-108頁
47. 剣道「正面打ち」における腕の運びと手首のスナップ動作および「手の内」の役割 共著平成13年3月 明星大学研究紀要人文学部 (37), 97-110頁 (明星大学)
48. 剣道「正面打ち」指導方法に関する研究—竹刀操作について— 共著 平成13年3月 体育研究 (35), 21-30頁 (中央大学)
49. 剣道高段者の試合時における打突動作 (筆頭論文) 共著 平成16年3月 明星大学研究紀要情報学部 (12), 97-110頁 (明星大学)
50. 剣道における打突方向と竹刀回転中心の関係 (筆頭論文) 共著 平成18年3月 明星大学研究紀要情報学部 (14), 145-151頁
51. 剣道一流選手の「正面打ち」の運動要素を用いた指導法の開発 共著 平成19年2月 明星大学健康・スポーツ科学研究紀要2, 1-11頁 (明星大学保健体育部会)
52. 剣道打突時における上肢角運動量 (筆頭論文) 共著 平成19年3月 明星大学研究紀要情報学部 (15), 115-122頁
53. 剣道「面打ち」における上肢角運動量 (筆頭論文) 共著 平成20年3月 明星大学研究紀要情報学部 (16), 69-76頁

54. 剣道の打突における「剣体一致」と正面打ちに指導法 共著 平成20年3月
55. 剣道打突の上半身・下半身・体幹の強調動作が竹刀操作へのエネルギー伝達を効果的にする根拠 共著 平成21年3月 明星大学研究紀要人文学部(45), 1-9頁(明星大学)
56. 剣道における踏み込み動作に関する研究(筆頭論文) 共著 平成22年3月 明星大学研究紀要日本文化学部・言語文化学科(18), 69-78頁(明星大学青梅校)

<その他>

1. 全国放送陸上競技大会新潟地区大会走高跳優勝 昭和43年 新潟県新潟市
2. 新潟県中学校陸上競技選手権走高跳優勝、三種競技優勝 昭和43年 新潟県柏崎市
3. 新潟県高校総体陸上競技大会走高跳優勝 昭和44年 新潟県新潟市
4. 新潟県高校総体陸上競技大会走高跳3位 昭和45年 新潟県新潟市
5. 北信越高校総体陸上競技大会走高跳2位 昭和45年 長野県松本市
6. 全国高校総体(陸上競技)出場 昭和45年8月 和歌山県紀三井寺
7. 新潟県陸上競技選手権走高跳優勝(2m00cm県記録樹立) 昭和48年 新潟県新潟市
8. 東京オリンピック記念体力測定より一選手生活停止後の16ヵ年の体力推移— 共著 昭和56年6月 デサントスポーツ科学2
9. 「スポーツのバイオメカニクス」「筋と神経」 共著 昭和57年6月 スポーツ大百科(スポーツ大百科刊行会)
10. 運動開始に伴う呼吸循環系機能の応答 共著 昭和58年6月 デサントスポーツ科学4
11. 走高跳における踏切過程の力学的分析 共著 昭和58年9月 身体運動の科学Ⅳ・スポーツのバイオメカニクス(日本バイオメカニクス学会編)(杏林書院)
12. 元マラソン選手の再トレーニングに関する追跡的研究 共著 昭和61年6月 デサントスポーツ科学7
13. 競歩におけるトップアスリートの技術 単著 平成3年4月 体育の科学(杏林書院) 41(4)
14. '91東京・世界選手権に見るトップアスリートの技術Part2バイオメカニクスの見地からの世界選手権—競歩Walking 共著 平成4年7月 月刊 陸上競技マガジン7月号増刊(ベースボールマガジン社)
15. シンポジウム「ウォーキングを考える」 共著 平成6年3月 第6回ランニング学会大会(東京)
16. ニュースポーツの動作分析 単著 平成9年 (ニュースポーツの安全対策に関する調査研究報告書)
17. 移動平均を用いた不正スタート発見装置 共著 平成9年 (平成9年電気学会全国大会講演論文集(1))
18. 陸上競技における不正スタート判定に関する問題点 共著 平成9年 (日本体育学会第48回大会号)
19. 陸上競技における不正スタート判定に関する問題点—検出方式の異なる不正スタート発見装置による判定結果の違い— 共著 平成9年10月 日本体育学会第48回大会
20. 検出方式の異なる不正スタート発見装置の比較 共著 平成10年8月 第1回陸上競

技の医科学コーチング国際会議

21. 「小手」打撃スピードの変化に伴う打撃音・打撃圧・打撃動作の関係 共著 平成11年9月 日本武道学会第32回大会
22. 剣道「小手打ち」における打撃スピードと打撃動作の関係 共著 平成11年10月 日本体育学会第50回記念大会／体育・スポーツ関連学会連合大会
23. 剣道「小手打ち」における打撃スピードと竹刀の動きの関係 共著 平成12年9月 日本武道学会第33回大会
24. 剣道「正面打ち」指導法の研究—竹刀操作について— 共著 平成12年9月 日本武道学会第33回大会
25. 剣道「正面打ち」における腕の運びと手首スナップ動作および「手の内」の役割 共著 平成13年9月 日本武道学会第34回大会
26. 剣道における打撃動作と打撃力の関係 共著 平成14年9月 日本武道学会第35回大会
27. 剣道高段者の試合時における打突動作 共著 平成15年9月 日本武道学会第36回大会
28. 剣道における打突方向と竹刀回転中心の関係—面打ちと小手打ちの比較— 共著 平成16年8月 日本武道学会第37回大会
29. 剣道熟練者の振り子運動型正面打ち指導法の研究—竹刀重心回転軸型正面打ちへの導入— 共著 平成17年9月 日本武道学会第38回大会
30. 小手打ちにおける上肢の運動 共著 平成17年9月 日本武道学会第38回大会
31. 剣道「正面打ち」の運動要素と指導法の開発—剣道上段社の打ち方を身につける方法— 共著 平成18年9月 日本武道学会第39回大会
32. 剣道打突時における上肢角運動量 共著 平成18年9月 日本武道学会第39回大会
33. 剣道正面打ちにおける「剣体一致」の検討 共著 平成19年8月 日本武道学会第40回大会
34. 剣道面打ちにおける上肢お呼び竹刀の運動 共著 平成19年8月 日本武道学会第40回大会
35. 面打ちの竹刀操作と踏み込み動作を協調させる指導法の開発—身体移動の原則が竹刀操作性を高めるメカニズム— 共著 平成20年8月 日本武道学会第41回大会
36. 剣道打突踏み切り動作の分析 共著 平成21年8月 日本武道学会第42回大会
37. 剣道打突踏み込み時の下肢の動き 共著 平成21年8月 日本武道学会第42回大会
38. THE EFFECT OF DIFFERENCES IN PASSIVE MUSCLE LENGTH CHANGES ON MUSCLE BLOOD VOLUME 共著 平成23年 ISB2011
39. 受動的ストレッチング中の下腿筋群における筋血流量変化 共著 平成23年9月 日本体育学会第62回大会
40. 日本拳法の逆突き動作に関する研究 共著 平成23年9月 第66回日本体力医学会大会
41. 剣道打突時の竹刀慣性モーメント 共著 平成25年9月 日本武道学会第46回大会（第1回国際武道会議）
42. 空手における打撃時の体捻転軸 共著 平成25年9月 日本武道学会第46回大会

(第1回国際武道会議)

43. 椅子立ち上がりテストにおける椅子の高さが測定結果に及ぼす影響について 共著
平成26年8月 日本体育学会第65回大会
44. 明星大学サッカー部のフィジカルパフォーマンスの特徴—走能力の違いに着目して—
共著 平成27年3月 明星大学健康・スポーツ科学研究紀要6
45. 巧みな身体運動発生メカニズムから探求するスポーツ人間学(指定討論者として発表)
単著 平成28年5月 創価大学教育学部研究会
46. バットスイングスピードに影響を及ぼす体格・体力要因 共著 平成29年1月 第5
回NSCA国際カンファレンス(千葉県幕張メッセ国際会議場)
47. ソフトテニスの第1サーブにおけるジャンプの有効性に関する研究 共著 令和4年
2月 令和3年度「JAPEW 未来世代の研究発表会」第65回研究論文発表部門(オンラ
イン発表)(東京)
48. ソフトボール初心者の打撃構えにおけるバット位置の高低が打球結果に及ぼす影響
共著 令和4年2月 令和3年度「JAPEW 未来世代の研究発表会」第65回研究論文発
表部門(オンライン発表)(東京)
49. ローイングの力発揮時における身体各部位の制限因子—大学ボート選手を対象に—
(オンライン発表) 共著 令和4年7月 2022年第8回 日本スポーツパフォーマンス
学会大会(東京)

金子敬二先生のご定年に寄せて

笹原 千穂子

本年3月をもってご定年で退職されます金子敬二先生の、本学におけるこれまでの多大なご尽力に対し、心からの敬意と感謝をこめて、贈る言葉を述べさせていただきます。

金子先生は1992年から本学に勤務され、着任当初は青梅キャンパスでの一般教育の体育実技授業を中心にご担当されておりました。当時青梅キャンパスには多くの学生が通学しており、緑豊かな地の広大なキャンパスで、テニスやソフトボール、バドミントンなど学生と一緒に汗を流されていたことと思います。その後、2010年の学部学科改組改編で、日野キャンパスに教育学部が設置され、保健体育コースの教員として金子先生の研究室も日野キャンパスに移りました。丁度その頃、私は明星大学に着任し、金子先生に出会いました。着任早々産休を取ることで、保健体育部会の先生方に申し訳なく思っていたのですが、金子先生は「これから教育学部は女子学生がどんどん増えるので、女性の先生が多い方がいい。また妊娠や出産をしながら働いてる姿を学生にどんどん見せた方が、将来をイメージできていい」と前向きな意見を頂き、勇気づけられました。

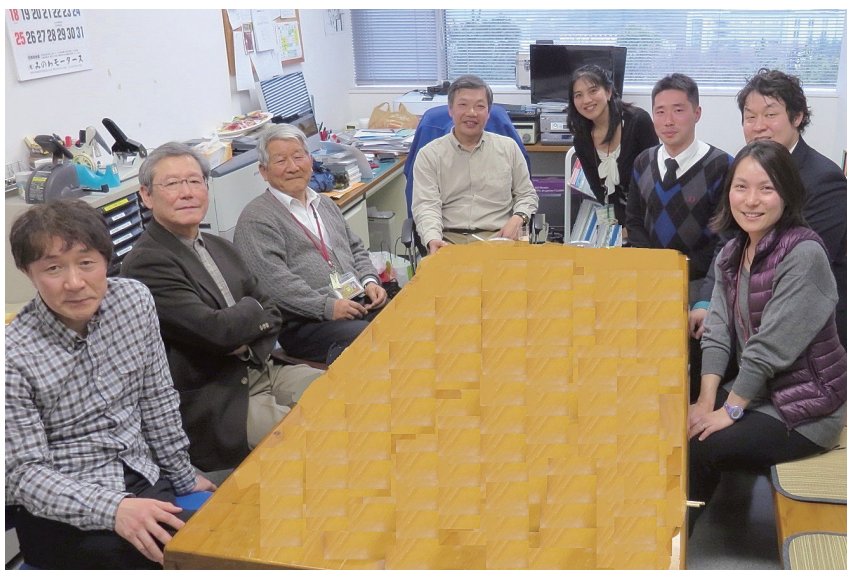
体育実技は何でも上手にできてしまう金子先生ですが、ご専門の競技は陸上の走高跳です。新潟県中学陸上競技選手権、新潟県高校総体陸上競技選手権では走高跳で優勝しており、大学時代には県大会優勝とともに、2m00cmの新潟県記録を樹立されております。また研究のご専門は、バイオメカニクスという体の構造や動き・動作の仕組みなどを物理や力学の視点から解明するという学問分野で、陸上競技や剣道、野球、バスケットボール、テニス、ラクロスなど、さまざまなスポーツ競技の動きの分析と解明をされています。金子先生のゼミの学生たちが卒業論文の提出時期に、自分の専門スポーツで上級者が当たり前に行っていた動作が、実はとても効率のよい動きだったことを理論的に証明できて、「面白いですね！」と活き活き話してくれる場面を多く目にしました。私自身、先生からバドミントンやテニスなどの実技を習う際に、バイオメカニクスの視点を取り入れつつ、わかりやすく指導してくださり、目から鱗という経験を多くしました。「スポーツを科学する」ということを、普段から実践されているのだと感じました。

バイオメカニクスでは多くの機器を取り扱うこともあり、金子先生は最新機器を取り入れたり、新しくシステムを組んだりすることが得意です。コロナ禍で遠隔授業の需要が高まった際に、より対面に近い授業となるよう、保健体育の演習室にカメラを数台設置して、板書やスライド投影をしながら授業を行えるスタジオを設置してくださいました(私たちは『金子システム』と呼んでいます)。保健体育コースでは、毎年全学年が出席して卒業論文審査会を行っておりますが、コロナ禍で皆が集まれないときにも、『金子システム』

で全員参加の卒業論文審査会が実現しました。

金子先生の研究室は、いつも人が集まってきて、研究のこと、教育のこと、学内のこと、雑談などを話し合えるサロンのような場所です。27号館の4階のエレベーターを降りると、思わず金子先生の研究室に引き寄せられるように入ってしまう経験をされた教職員の皆様も多いのではないのでしょうか。廊下で会えば「コーヒー飲んでいく？」と誘ってくださり、オープンマインドで話を聞いてくださったり、先生の抱腹絶倒の経験談を聞いたりにしているうちに、時がたつのを忘れてしまいます。ご趣味も広く、ギターでバンドを結成されていたり、ご自宅にミニシアターがあったり、絵が上手で教科書の図を描いて下さったりと、話題は尽きません。ご退職後はギターの時間が増やせるとのこと、是非ライブを観に行かせてください。

金子先生におかれましては、ますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、大学にも是非お越しいただき、また楽しいお話を聞かせてください。コーヒーを用意してお待ちしております。長い間、本当にありがとうございました。



2014年3月 金子先生の研究室にて